

あなたの命を最優先に考え  
迅速に動ける人たちが  
ここにいます。

# いざというときの 頼れるヒーローたち

今回の特集は、「住む人にとって安心・安全  
なまちづくり」がテーマです。

充実した救急体制で24時間365日奮闘  
する消防職員と人にやさしい医療を実践す  
る多治見市民病院の病院長のインタビュー  
を通して、多治見市の救急・医療環境の現状  
を紹介します。



多治見南消防署の皆さん

# 自分の持つ能力を 最大限に生かし、 一人でも多くの 命を救いたい。

— 南消防署救急救命士 宮島忠義さん みやじまただよし



▲119番通報を受けた通信指令課。場所と容体を確認した後、不安な通報者に対し口頭指導を行う



▲(右)高規格救急車に搭載された医療用資器材。病院に到着するまで救急救命士が医療行為をする (左)仮眠室

## 常に救急要請に応える体制

多治見市の消防士は、「安心して暮らせるまち」の実現のため、一丸となり日夜全力で消防・救命活動を行っています。私が消防士になったのは平成7年。研修など特別な時以外は全署員が<sup>※1</sup>24時間交代制勤務をして救急要請に備えています。

平成29年中の救急出動件数は4千798件。うち、内科的疾患などが原因の急病が3千118件(約65%)と最も多く、一般負傷671件(14%)、交通事故338件(約7%)と続きます。市民の約24人に1人が救急車を利用したことになります。

市民からの119番通報は全て消防本部(三笠町)の通信指令課につながります。場所の特定、症状などを確認した後、原則管轄の消防署から救急車を出動させます(全て出払っている場合は他署から出動)。出動から現場に到着するまでの約9分間、不安な通報者に対し電話を通して応急処置の口頭指導を行います。無駄のない連携した動きが求められます。

## 救急救命士の役割

平成21年、私は<sup>※2</sup>救急救命士の資格を取りました。市内には23人の救急救命士がいて、多治見市消防本部では、出動の際には原則1人は乗車することになっています。救急救命処置は現場と救急車内で行います。医師の指示の下行う医療行為は、心臓停止または呼吸停止状態の人に対してのみ適用されてきましたが、法改正により平成26年からは停止前の実施が可能になりました。

救急救命士ができる医療行為には、具体的に、<sup>※3</sup>静脈路確保、<sup>※4</sup>気管挿管(心肺停止状態の患者のみ適用)、アナフィラキシー症状に対するエピペンによるアドレナリン処置(患者本人が所有するエピペンに限る)や低血糖発作患者へのブドウ糖投与などがあります。どの処置にも、冷静な観察と判断が必要です。また、処置能力の維持と判断を誤らないために、私たち救急救命士は、年5回市内の病院で実習を受けます。目の前で苦しんでいる人を秒でも早く処



▲高度救急処置シミュレーターを使った本格的訓練

(右)カメラ付気管挿管▶  
(左)救急要請に出動



# 救命率を上げる、 そのためには 救命の連鎖が 何より大切です。

置してあげたい。そのために実習で吸収できることは全て吸収し勉強もします。

## 救命の連鎖

しかし実際は、救命できず悔しい思いをした事例がいくつもありました。そのほとんどが、心臓や呼吸が止まってから応急手当がなされずに時間が経過してしまったケースです。「救命の連鎖」という言葉があります。まず、患者の近くにいる人たちが心臓マッサージなどの救命処置を行うこと。そして、私たちが到着し医療機関に継ぐという連鎖です。救命の連鎖がスムーズにいかなかった場合、残念なことですが、助かる命も助かりません。救命処置に対する意識改革と実際に動ける人を増やすために、多治見市は「救急救命講習会」を積極的にを行い、受講者年間1万人を目標にしています。また、市内には急患を受け入れる病院が2つ(真立多治見病院、多治見市民病院)あります。人口11万人都市でこれだけの医療機関がそろっているのは全国的にみても珍しく、非常に恵まれた環境であることは間違いありません。救急搬送後は、引き継ぐ医師に詳しく現場での状況を伝えます。「状況的に厳しい」と思っていた人が、自分の救命処置で助かった経験があります。何よりもこの仕事に対する責任の重さややりがいと感じた出来事です。これからも自分の持てる能力を最大限に生かし、一人でも多くの命を救いたいです。

- ※1 午前8時30分から翌日の午前8時40分までが勤務時間。途中、休憩や仮眠(3交代制で約6時間40分)を取る
- ※2 厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示の下に救急救命処置を行う人
- ※3 静脈内に針やチューブを留置し静脈路を確保すること。必要時に薬剤を静脈内投与することが可能になる
- ※4 気管にチューブを挿入して肺に酸素を送る医療行為

問 南消防署 TEL 22-9217  
通信指令課 TEL 22-9216

多治見市民病院の診療内容が飛躍的に充実

# 病気の種類により 病院を選ぶ時代になりました。

生まれ変わった多治見市民病院

経営が悪化し、運営が社会医療法人厚生会木沢記念病院に委ねられ、立ち直るまでに7年かかりました。その間、高度医療を必要とする市民のほとんどは県立多治見病院（以下、県病院）を受診するしか選択肢はありませんでした。現在の多治見市民病院（以下、市民病院）は、診療内容が充実するとともに、医師の専門性を生かした診療科がいくつもできてきています。県病院と市民病院がそれぞれ得意とする診療科を持つようになったのです。市民は病気の種類により病院を選ぶようになり、市内で病気を治すことができるようになりました。多治見市の医療環境は格段に良くなりました。

ここ数年で、市民病院には私の前任地である愛知医科大学病院（以下、愛知医大）などから熟練した医師が多数着任しています。例えば消化器内科では早期癌<sup>がん</sup>であれば、開腹せず内視鏡的治療で癌を切除できます。また、腎臓・

リウマチ膠原病内科には私を含めリウマチ専門医が複数おり、平日の午後は毎日リウマチ・膠原病外来を行っています。循環器内科については、愛知医大と木沢記念病院の循環器内科との密接な連携のもと高度な先進医療の提供を行っています。心臓カテーテル検査、治療

（狭心症、心筋梗塞の治療）はもちろんのこと、徐脈性不整脈<sup>じゆまくせいふせいみやく</sup>（脈が遅くなる不整脈）に対するペースメーカー治療も行い、東美濃地域におけるペースメーカー治療の拠点となりつつあります。また、整形外科・人工関節センターでは、<sup>※1</sup>変形性関節症の方などへの人工関節手術を週3〜4回行っています。また、外来では、愛知医大の出家教授<sup>でいせ</sup>が診察します。出家教授は、プロ野球の広島東洋カープのチームドクターとしてトップアスリートの治療にあたってきた実績があります。午後には当院でも手術を行っています。

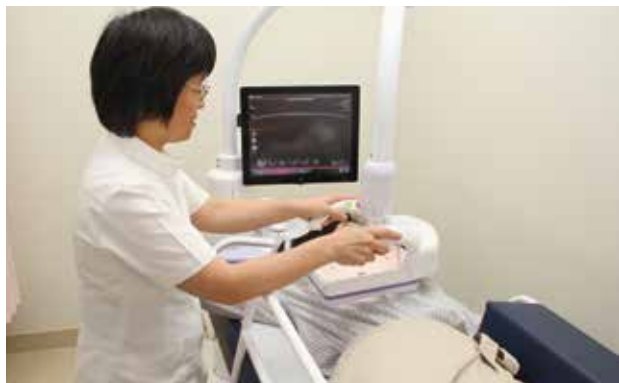
<sup>※1</sup> 関節の構成成分である軟骨がすり減ってしまい、関節の形態が著しく変形してしまつ病氣

レディース・小児病棟

今年5月から婦人科、乳腺外科、形成外科、小児科を配する26床のレディース・小児病棟をオープンしました。これにより子宮癌および乳癌の健診から診断、さらには手術を含めた治療を行えるようになりました。多治見市だけでなく東美濃地域にとっても画期的な

進歩です。特に乳癌手術後の乳房再建も合わせて行うことができます。

婦人科として特殊なものをご紹介します。加齢による腰周りの筋肉の衰えにより子宮が下がる骨盤臓器脱（子宮脱）という症状に悩む女性が多くみえます。他人に相談できず我慢してしまうケースが多いようですが、子宮を固



▲(上)県内第一号の最先端超音波検査機器「ABUS」  
(下)心臓リハビリテーションの様子



▲レディース・小児病棟の看護師



【専門分野】内科学、腎臓学、リウマチ・膠原病学

【出身大学】秋田大学医学部医学科

【主な勤務先】虎の門病院(昭和52~54年)、秋田大学第三内科(昭和54年~平成14年)、愛知医科大学(平成15年~29年)、多治見市民病院(平成29年~現在)

定する腹腔鏡手術で、身体にそれほど負担をかけることなく症状を改善させることができます。一人で悩まず、受診されることをお勧めします。

また、小児科は1年365日(土・日曜日、祝祭日含む午前9時~正午)、小児科医が診療を行っています。小児科では、感染症を主とする一般的な疾患(風邪など)のほか、アレルギー、免疫、発達障害など、症状ごとにきめ細かな診療・相談を行っています。神経、腎臓、循環器系の疾患については、それぞれの小児専門医が外来を行っています。特に、小児てんかんに関しては全国的に有名な愛知医大の奥村教授が専門外来を行っています。

### 救急体制の充実

救急外来については外科専門医が常駐し、内科系の医師を含む2人がバック

アップする態勢をとっています。日中の午前8時から午後5時まで、救急車で運ばれてくる全ての患者を受け入れています。実は、数年前まで救急搬送のほとんどは県病院へ運ばれていました。医師や診療体制の充実を図ったことにより、現在は市内の救急搬送患者の約45%を市民病院で対応できるようになりました。軽症から中等症までは市民病院、重症は県病院という役割分担もできてきています。

### さらに安心 医療連携

さまざまな要因が重なり、市民病院での治療が難しくなった場合は、県病院や愛知医大などに患者を搬送します。反対に、他の医療機関から患者を受け入れることもあります。これを「医療連携」といい、患者は適切な医療を迅速に受けると共に、より大きな安心を得ること

ができます。救急車であれば愛知医大までは約30分、病院屋上のヘリポートからヘリコプターを使えば、7分で到着します。ちなみに、昨年12月から7月まで4回ヘリコプターを使用しています。このように高度先進医療へも迅速に対応できる体制が整っています。

### 臨床研修病院へ

市民病院は、患者数や指導医師数、研修内容などが国の基準を満たしたので、本年2月に「臨床研修病院基幹型」に申請し認定されました。現在、来年4月からの初期研修医を募集しています。

医師が専門医になるためには、医師になつてから3年間の臨床研修が義務付けられており、その後さらに3年間の後期専門研修を行います。そこで研修記録と試験を受け合格してはじめて専門医になります。医学部卒業前の学生は、臨床

研修を受けることができる病院(臨床研修病院基幹型)を探しています。市民病院はそうした若い医師を受け入れ育てます。また、後期専門医研修も可能です。古川市長がよく言う「カムバックサーモン」。サケは生まれ育った所に戻ってくるという意味ですが、まさに5年後、10年後にはたくさんの研修医が立派な専門医になって多治見の医療に貢献してくれることを期待しています。医師を捜しに行く病院から専門医を育てる病院に変わるので。

### 子どもに「夢」を

7月21日に開催した「子どもメディアカールスタッフ体験ツアー」に市内の小学5・6年生とその保護者24組が参加してくれました。「将来はドクターや看護師や薬剤師や技師になりたい」という子どもたちが、目を輝かせながら医療現場を体験し、夕方のニュースでも取り上げられ、病院長としてもうれしかったです。閉鎖的と思われがちな病院ですが、一人でも多くの方が市民病院に愛着を持っていただくことを願っています。そして私たちは、身近で困っている人に手を差し伸べることができる「愛と希望がある病院」を目指します。

# 「愛と希望」がある病院」 私が目指す病院の姿です。

多治見市民病院病院長 今井裕一  
(愛知医科大学名誉教授)

問 多治見市民病院  
TEL 22-5211